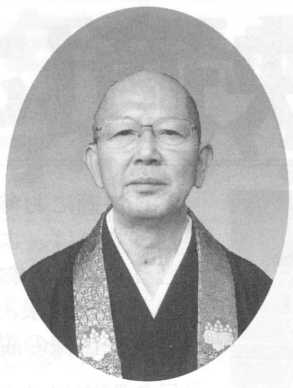
朝日寺だより

発行者　若松隆英
総代会
印刷者　奥山印刷

何事も感謝の心から

住職　若松隆英



新しい年が始まりました。皆様良いお年をお迎えのことと存じます。

いよいよ御開帳（来年四月五日に行ないます。）が近づいてきました。

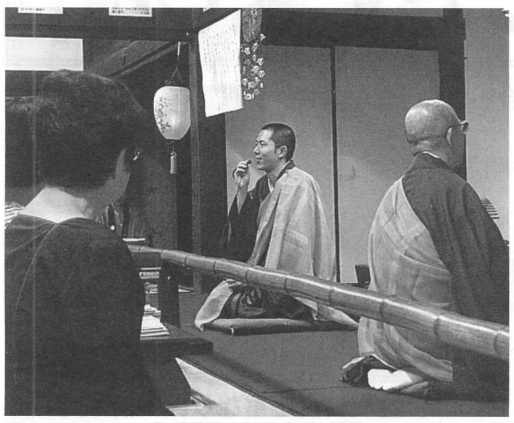
さて、昨年は一月二十三日に先代住職正隆和尚が九十四歳で遷化致しました。葬儀は大変寒い中でしたが、大勢の方に参列頂き盛大に送ることが出来ました。誠にありがとうございました。戦中戦後のお寺の困難な時代を乗り越えて、六十歳の時には大変な交通事故に遭いながらも、奇跡の復活を遂げて長寿を全うしました。本人もそれなりの満足感を持った一生だったのではないかと思います。お寺のほうは残った者で一生懸命頑張って参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

目を世に転じますと、去年はオリンピックの年でした。印象に残ったのは試合を目前にした選手の闘志を剥き出しにした表情と、メダルを勝ち得た瞬間のあのはじけるばかりの喜びよう、自分のことのように元気を貰いました。そして何より印象に残ったのが、その後の選手のインタビューです。勝っても勝てなくても、出てくる言葉は『自分を支えてくれた人たちへの心からの感謝の言葉』です。それまで一心不乱に努力した者だからこそ、競技が終わった時には周りへの感謝の思いが溢れ出てくるのだと思います。その競技人生の苦労と努力の大きさも想像させる思いがしました。

思えば朝日寺もたくさんの方の協力があってこれまで守られています。おかげさまで近隣のお寺からも羨まれる程立派になったと思っております。感謝の念に耐えません。

ところで今一番の苦労は本堂裏のツツジ園の管理。灼熱の太陽が射す夏に協力者を得ながら水やりをしていますが、秋になると葉っぱが茶色になるものが出てきます。去年は尻海の水野金吾さんが夏の炎天下でツツジの剪定をして下さいました。その時に一面にはびこっている『びんぼうづる』について「おじゅっさん、これはいくら取ったっていけん、地中に芋があって取っても取っても新しくツルが出てくるから茎の一部を切ってそこに薄めに除草剤を浸してやったら茎が吸った除草剤が芋に伝って、そこから出てくるツルは枯れる」という話でした。びんぼうづるは数ある外来種の中でも特に強いメダル級の繁殖力を持った草です。水野さんのアドバイスに従って何とか次シーズンに綺麗なツツジを咲かせようと私なりに努力しました。その甲斐あってツツジを覆っていたびんぼうづるも一見見えなくなりました。自分ではびんぼうづるに勝ってメダルを取ったぐらいの気分なのですが…さて今年の春のツツジの咲き具合はどうでしょうか。そんなに甘くないよと笑われるかもしれませんが…。

でも何かに向かって挑戦するのはいくつになっても気持ちの良いものですし、いろんな方の協力への感謝の念が湧き出てきます。



新年の御挨拶

総代長　清水　佐伯男（きみお）

新年明けましておめでとうございます。

檀信徒の皆様におかれましてはご家族お揃いで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

朝日寺にとって昨年は新年早々不幸なことがございました。平成二十四年一月二十三日に若松正隆権大僧正が逝去されました。

権大僧正は皆様も良くご存知のように非常に心の温かい人で檀家の人は勿論、誰にでも気持ちよく接して色々教えていただき勇気を与えてくださりました。本当に残念でなりません。

権大僧正がお亡くなりになりましたので二月の節分会は中止いたしました。

花祭りにつきまして昨年は恒例の五月八日ではなく日曜日にしようと言うことになり五月十三日（日）に開催いたしました。檀家の方は勿論、檀家外の方も沢山ご参加いただき、好天にも恵まれ盛大に行われました。

七月十六日（月）の海の日に行われました、よみあげ〈投げ銭供養〉には多勢の方のご出席をいただき先祖の供養を行うことができました。また秋の寺めぐりにつきましても八十九名のご参加をいただき有難うございました。

箕面公園のもみじも綺麗で良かったです、また勝尾寺参拝に行きましたがスケールの大きな綺麗なお寺で参拝客も大変多く観光寺と言った感じでした。

また、茨木市の総持寺にも参拝いたし、ここでは本堂を開けてくださり拝ましていただき気持ちがすっきりいたしました。参加者全員元気で寺めぐりが出来ました。

今年も寺めぐりをいたしますので、皆さんご参加下さい。

十二月三十一日の大晦日〈除夜の鐘〉には地元の方々のご参拝をいただき有難うございました。

檀信徒の皆様には昨年一年間寺の運営、行事等ご協力いただきましたことに対しまして心より御礼申し上げます。

本年も各種年中行事を予定しておりますので多数のお参りを、また朝日寺に対して変わらぬご協力をお願い申し上げます。御開帳も来年の四月五日に行なうことに決まりました。

全ての檀家にとって意義深い行事になるよう、只今行事運営の計画を練っております。

本年が皆様方にとって最良の年であることをお祈りいたします。

子らが皆　集いて先祖を　祭りおり
倖せの日日　送ると伝う

山田真加祢

棚経を無事終えて、八月十五日の水まつり（精霊送り）の行事の際、仏様への感謝の心を忘れぬよう、参加者の方々を前にお話したところ、早速に福谷間口の山田真加祢さんがこのような短歌を詠んで下さいました。と言いますのも、例として、お世辞にもあまり丁寧に管理がされているとは言い難い感じのお仏壇に買ったばかりの宝くじをお供えしている…こういった光景を目の当たりにして、ご先祖様を含めて仏様に対する現代の人々の向き合い方にいささかの疑問を感じたからです。仏様とは我々を守って下さる、居るだけでもありがたい存在なのです。あくまでもご先祖様は、自身の現況報告や日々の感謝をする対象であり、お願い事をするのはこれらがベースにあってこそのことと思います。

感謝の念無くして、助けは得られない。思えば先述の五輪選手らのインタビューと今置かれた我々一般人も同じく、支えられて生きているということに重なる気が致します。

さぁ、いよいよ三十三年に一度の御開帳が来年に迫ってきました。御開帳の日は四月五日（土）とし、それ以上のことについては総代会などで協議検討中です。この度もお薬師さまを生で拝める有難さ、そしてここまで支えてきて下さった方への感謝。三十三年に一度しかない機会ですので、より多くの方に参加していただき、皆様にも朝日寺の歴史にも残る行事に出来るよう考えております。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

合掌